



信州大学医学部附属病院より留学支援をいただき、2013年4月より米国メリーランド州ボルチモア、ジョンズ・ホプキンス大学医学部 Departments of Pathology, Oncology and Gynecology/Obstetrics に留学させていただいております。

私が所属する研究室は、卵巣漿液性腺癌は卵管上皮内癌 (Serous Tubal Intraepithelial carcinoma, STIC) の転移により発生するという「STIC説」やがん抑制遺伝子 ARID1A の研究で知られており、世界各国から十数人の研究者が集まっています。現在、初期の卵管病変から漿液性腺癌に発現する分子に関する自分のプロジェクトが始まったところで試行錯誤を重ねています。

ボルチモアは米国東海岸、チェサピーク湾最奥に位置する人口62万人の古くから栄える港町です。ワシントン DC へは南に車で1時間、ニューヨークへは北に3時間半のところであり、米国内では、独立戦争や南北戦争の舞台となり国歌や星条旗が生まれた歴史の町として知られています。ボルチモアは治安の悪い街としても有名で、地元紙によると年間350人が銃で亡くなっているそうです。私が通う大学周辺も治安が良いとは言えず、大学施設の周囲には50mごとに警備員が立っていますが、「通勤中の職員が病院横の〇〇通りで殴られてタブレットを盗られた。周りに注意しろ！でも抵抗はするな！」といった Security Alert が月に2、3度メールで送られてきます。幸い日本人でこのような事件に巻き込まれたという話は聞きません。

ボルチモアは日本人にはあまりなじみのない街だと

思いますが、野球好きの方ならカル・リブケンという名前は聞いたことがあるのではないのでしょうか。広島東洋カープ衣笠祥雄の記録を抜き、歴代1位の2,632試合連続出場を果たした選手で、彼の所属した球団こそがボルチモア・オリオールズ (通称 O's) です。メリーランド州出身で現役時代のすべてをオリオールズで過ごしたリブケンは今でもボルチモアの英雄であり、彼の背番号“8”はオリオールズの永久欠番となっています。日本からは、元福岡ソフトバンクホークスの和田毅選手が在籍していますが、残念ながら肘の故障のためメジャーのマウンドで投げることなく2年の契約が切れようとしています。ホームグラウンドのカムデンヤードは港の近くにあり、煉瓦と鉄骨を組み合わせた港町らしい外観のとても美しいボールパークです。球場の雰囲気、地元ファンの熱烈な応援にすっかり魅了され、家族全員 O's Tシャツにキャップ姿で応援に行っています。

家族との生活は日本とは大違いです。毎日、家族と朝食・夕食を共にし、週末もほぼ休みなんて日本では考えられません。日本で小学校1年生、4年生の子供たちは現地の小学校に通っています。通い始めたころ学校の感想を聞くと「ひま…」でした。先生の話す言葉がまったくわからないため授業中にやる事がなかったようです。5カ月経った今では、先生の話もだいぶん分かるようになり、学校のことや友達のことをいろいろと話してくれるようになりました。下の子は英語のような言葉？歌？呪文？をぶつぶつと言っています。子供の順応力には本当に驚かされます。一方、私の英語力は足踏みを続けており、最近では子供たちに発音がおかしいと怒られています。

今回の留学・米国での生活は私にとっても家族にとっても一生に一度の貴重な経験であり、さらに充実した留学生活が送れるよう頑張りたいと思います。最後に、産婦人科医師不足により長野県の産婦人科医療が危機的状況にある中留学の機会を与えてくださった塩沢丹里教授、多忙を極める産婦人科病棟・外来を守って下さっている医局の先生方や関連病院の先生方、留学に際したくさんの温かい応援を下された方々に心より感謝申し上げます。

(2013年9月)

(信州大学医学部産科婦人科学講座所属)